

「延世大学校スプリングスクール 参加報告書」

京都大学教育学部・4年 藤川ともみ

①学習成果

一番の成果は、やはり韓国語の上達である。私の韓国語力は初級レベルだが、3週間の研修を通じ、語彙、文法、4技能全てにおいて大きく上達を感じられた。本や授業で学んだ単語や文法が、実際の会話の中で使われているのを耳にしたり、自分が使ってみたりすることができたのは、やはり現地で学んでいるからこそ得られた経験だった。そうして身に付けた語彙や文法は簡単には忘れないため、非常に効率的に学べた。適切な接続詞や動詞の連体形活用、タメ口にあたるパンマルなどを使えるようになったところに、今回の大きな学習成果を感じる。

また韓国の歴史や文化についての理解も深められた。個人的に訪れた大韓民国歴史博物館では、韓国の近代史を学んだ。朝鮮戦争の経緯や戦後の韓国経済の急成長などについて、深く知ることができた。日韓の歴史にはどうしても負の側面が目立ってしまうが、自国の主張と相手の見方と、双方の視点を知ることが何より大切だと感じる。その意味で、韓国の視点で作られた博物館は非常に勉強になった。

そして韓国人学生との交流を通じ、日韓の文化や人間関係の違いを肌で感じられたのも面白かった。概して韓国の学生は人情味に厚くフレンドリーで、彼らを通じて韓国の魅力をたくさん教えてもらった。その一方で、日本以上に熾烈な受験・就職競争の現状も垣間見ることができた。

②海外での経験

私はこれまでに英語圏への留学経験が2年あり、韓国語研修への参加は昨年夏のソウル大研修に続き2回目である。英語以外の外国語を本気で学ぶのは韓国語が初めてであり、新しい言語を一から学ぶ大変さと楽しさを実感している。

私は英語の教員免許を取ったこともあり、言語教育に興味を持っている。自分自身の韓国語習得過程を通じ、日本の英語教育に関しても多々考えさせられた。ソウル大でも今回の延世大研修でも、どちらもたった3週間であったが大きく韓国語の上達を感じられた。それは文法や単語の知識を詰め込むだけでなく、それを使わせ、身につけさせることを目指すコース構成になっているからだと思う。日本の英語教育では、やはりアウトプットの機会が圧倒的に少ないことが一番の問題点だと感じる。

英語以外の外国語を学ぶことももちろん有意義だが、やはり海外へ出て一番必要とされるのは英語である。熾烈な就職競争という環境も影響してのことだろうが、英語学習に対する危機感やモチベーションは、韓国の学生の方がずっと強く持っている。実際、今回出会った延世大の学生の大半が、英語を流暢に使いこなしていた。私は2年の留学のおかげで、英語を上達させることができたが、それがなければ中・高・大と10年近くもの年月を費やしたものの、英語を使えるようになったとは思わない。日本では、英語は使えて当然、というグローバルスタンダードを感じてすらいらないように思う。韓国の学生との交流と韓国語学習の経験を通じ、日本の英語教育に対してこれまで以上に焦りや危機感を覚えてしまった。

③プログラム内容

3週間に渡り、平日の9時～13時まで延世大語学堂にて韓国語の授業を受けた。授業はレベル別に分けられており、私は下から二番目の2級のクラスで勉強した。クラスは先生一人に対して生徒は10名程度で、授業は全て韓国語で進められた。私たちは3か月コースで学んでいる学生たちの中に3週間だけ放り込まれ、3か月コースの一部を勉強するという形での受講だった。夏に参加したソウル大では正式に3週間コースで学んだため、他の学生とも同条件でその級を体系的に学び、最後には試験もあった。それに比べると今回は、学習面では不完全燃焼感があった。また、授業構成に関しても、両大学には比重を置く技能に差が見られた。延世大では文法や読み書きに割く時間が多く、リスニングやスピーキングの練習はソウル大に比べるとかなり少なかった。

他には、授業後週に2回程文化体験や市内観光があり、また延世大の学生20名程度との交流会も一度あった。

④進路への影響

既に就職先も決まっている卒業間近の段階での参加だったため、進路決定への直接的な影響はないが、今回二度目の韓国語研修へ参加し、いつか韓国で働いてみたいという気持ちは高まった。私は4月から日本企業の海外貿易・海外進出に関わる仕事に就くことを予定しており、韓国に関わる機会もあるかもしれない。今後も韓国語を勉強し続けたい。

한국어 공부와 한국 학생들과의 교류가 아주 즐거웠습니다! 한국어 공부를 계속합니다.
이러한 귀중한 기회를 주셔서 정말 감사합니다.